

JARL 横須賀クラブ誕生の歴史

1. 横須賀市の深田台町内会館で勉強会

戦後、中止されていたアマチュア無線が 1951 年頃に再開されるとの情報が流れ始めました。

私は中学生の頃からラジオ少年で無線にも興味があり、同じ職場の坂元 弘さんと資格を得るため勉強会を開く事になりました。具体的には坂元 弘 宅に近い深田台町内会館の 2 階で毎週日曜日の午後に行う事になりました。講師は特別に置かず全員で無線工学、電波法規や送信機の回路設計など議論しながらの学習風景でした。

当時は殆どの家庭に電話がなく連絡手段がありませんでしたが口込みで 15 人程度の人が集まりました。参加は自由、お互いに名前も分からない同志でしたが黒板を使用しての真剣な討論をしました。若い人の中には中学生の斎藤さん（後の JA1A0W）年配者には歯科医の奥村さん（後の JA1AFY）もおり、開局に向け合格点 70 点以上を目指しました。

当時、試験は記述式で 技術、電波法とも合格点 70 点以上にならないと駄目なので特に電波法は徹夜で暗記しました。国家試験の第 1 回、第 2 回は受験せず見送り第 3 回目に受験、無事合格しました。合格発表は試験会場の中野無線学校に行き確認しました。関東地区では約 200 人が受験し 50 名程度の合格でした。

早速、無線局の開局申請書を本郷湯島の郵政省関東電波管理局に持参しましたが、コールサインが 1 日でも早く欲しいので郵送がされて来るのが待ちきれず直接、関東電波管理局に確認に行き官報で JA1II を確認しました。

私の無線設備は約 1 年かけ自作した送信機、受信機のセパレート型で、この時期には、ほぼ電波が出せる状態でした。アンテナは孟宗竹 13m のもの 2 本を使用のダブルトアンテナでした。

2. 三浦半島に JARL 横須賀クラブ誕生

勉強会の仲間から多くの合格者が出て無線局の開局につながり JARL 横須賀クラブの結成に繋がったものと思います。

私の開局は 1953 年 5 月 30 日（20 歳）でした。

そして申請に必要な JA1ES, JA1II, JA1IV の 3 名がそろいましたので JARL に会長 JA1ES 坂元 弘 名で所定の申請書を私が JARL に持参、JARL 横須賀クラブが誕生しました。神奈川県で鎌倉に続いて 2 番目の JARL 登録です。

後日の会合で、会報作成に当たり良い名をさがしましたが適当なものが無く私の提案で当時のアメリカの外国放送(当時の送信場所は不明)VOA を利用、横須賀クラブの会報名 VOICE OF YOKOSUKA としました。

第 1 回 VOICE OF YOKOSUKA は活動が少なく記事が少ないため少々遅れましたがようやく発行責任者 JA1ES 坂元 弘 会長名で発行する事が出来ました。

また当時の電波監理局監視係長 石田 弘吉 氏に依頼、当クラブの顧問としてお願い初声の電波監視所の見学会に参加、無線の運用等についての指導も受けました。

その後、アマチュア無線の情報が無線関連誌、新聞等で多く報道されるようになり JARL 横須賀クラブの会員数も徐々に増え、会則も充実し、読売新聞にも報道されました。

昭和 34 年には社団局免許が制定施行され、クラブ局 JA1YBQ が開局したのは昭和 35 年となりました。JARL 横須賀クラブは 5 年後に 70 周年を迎えます。

2018 年 12 月 4 日 JA1II 中野 昌男